



2025年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年1月10日

上場会社名 株式会社マックハウス 上場取引所 東
 コード番号 7603 URL <https://www.mac-house.co.jp>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 石野 孝司
 問合せ先責任者（役職名） 取締役管理部長（氏名） 小林 大介（TEL）03-3316-1911
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年2月期第3四半期の業績（2024年3月1日～2024年11月30日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第3四半期	9,758	△16.6	△804	—	△763	—	△922	—
2024年2月期第3四半期	11,698	△13.8	△550	—	△516	—	△694	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2025年2月期第3四半期	△59.67		—					
2024年2月期第3四半期	△44.89		—					

（2）財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
2025年2月期第3四半期	7,943		1,784	22.5		
2024年2月期	8,375		2,707	32.3		

（参考）自己資本 2025年2月期第3四半期 1,784百万円 2024年2月期 2,707百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年2月期	—	0.00	—		
2025年2月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,500	△12.4	△890	—	△850	—	△1,070	—	△69.20

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2025年2月期3Q	15,597,638株	2024年2月期	15,597,638株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2025年2月期3Q	136,355株	2024年2月期	136,207株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2025年2月期3Q	15,461,364株	2024年2月期3Q	15,461,431株
------------	-------------	------------	-------------

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
3. その他	8
(継続企業の前提に関する重要事象等)	8
(商品別売上高の状況)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間(2024年3月1日~2024年11月30日)における我が国の経済は、堅調な企業業績、賃金の上昇等による雇用や個人所得環境の改善により、緩やかな回復基調となりました。一方で、不安定な海外情勢や円安を背景とした原材料・エネルギー価格の上昇による物価高騰に伴い、景気回復の足踏みが懸念されるなど、依然として経済リスクは高く先行き不透明な状況が続いております。

当社が属するカジュアルウェア業界におきましても、物価高騰に伴う節約志向の高まりや、猛暑や暖冬などの気温や気候の変動によるライフスタイルなど消費ニーズの変化に対応することが求められております。

このような状況のもと、当社は、「暮らしに役立つ商品と企業活動を通じて地域社会に貢献します。」という企業理念のもと、お客様の生活に密着したライフスタイル提案を行ってまいりました。商品政策におきましては、夏の記録的な猛暑により近年お客様の注目度が高まっている冷感素材を使用した「SA・RA・RI」シリーズ商品の取り扱いアイテムを拡充し販売強化を行うと共に、長引く残暑に伴う需要の変化に対応するために、夏物売れ筋商品の追加生産や夏物秋カラー商品の投入など品揃え計画の軌道修正を行い、晩夏における売上対策を行いました。また、秋物の立ち上がり時期においても、体温調節しやすい着こなしの提案や地域別に異なる気温差を考慮した細やかな投入時期の調整を図るなど、昨今の気候や気温の傾向に沿った商品政策の見直しを図りながら、プロモーションを連動させた主力商品の店頭提案を強化し、当社のコアアイテムの育成を推進しております。

最優先課題の一つである営業利益の確保におきましては、不採算店舗の閉鎖をはじめ、持越し在庫の処分を進めると共に、徹底した仕入コントロールによるキャッシュアウトの抑制を実施し、収益体質の改善に向けた取り組みを継続しております。

これらの結果、既存店売上高は、前年同期比6.2%減、既存店客数は、前年同期比6.1%減、既存店客単価は、前年同期比0.1%減となりました。

また、当第3四半期累計期間末の店舗数は、3店舗の出店、18店舗の閉鎖により、263店舗(前年同期比25店舗減)となりました。

利益面におきましては、売上高の減少に伴い、売上総利益は前年同期比18.0%減となり、経費面におきましては、賃借料や計算機器関連費、人件費の減少により、販売費及び一般管理費は前年同期比12.4%減となりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間における売上高は9,758百万円(前年同期比16.6%減)となりました。また、営業損失は804百万円(前年同期は営業損失550百万円)、経常損失は763百万円(前年同期は経常損失516百万円)、四半期純損失は922百万円(前年同期は四半期純損失694百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ431百万円減少し、7,943百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ206百万円減少し、5,530百万円となりました。これは主に商品が183百万円、現金及び預金が504百万円それぞれ減少した一方で、売掛金が478百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ224百万円減少し、2,413百万円となりました。これは主に、敷金及び保証金が119百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ491百万円増加し、6,159百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ258百万円減少し、3,112百万円となりました。これは主に、電子記録債務が171百万円、未払法人税等が35百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ749百万円増加し、3,047百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ922百万円減少し、1,784百万円となりました。

これは主に、四半期純損失を922百万円を計上したこと等によるものであります。

総資産に占める自己資本比率は22.5%となり前事業年度末に比べ9.9ポイント減となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年4月12日付、「2024年2月期決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年2月29日)	当第3四半期会計期間 (2024年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,540	1,036
売掛金	326	804
商品	3,680	3,496
前払費用	130	129
その他	59	63
流動資産合計	5,736	5,530
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	48	44
建物附属設備（純額）	266	224
構築物（純額）	4	1
車両運搬具（純額）	-	0
工具、器具及び備品（純額）	44	35
リース資産（純額）	4	4
土地	173	109
有形固定資産合計	541	419
無形固定資産		
	109	131
投資その他の資産		
長期前払費用	26	21
敷金及び保証金	1,961	1,842
その他	13	10
貸倒引当金	△14	△11
投資その他の資産合計	1,986	1,862
固定資産合計	2,638	2,413
資産合計	8,375	7,943

(単位:百万円)

	前事業年度 (2024年2月29日)	当第3四半期会計期間 (2024年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	777	767
電子記録債務	1,801	1,629
ファクタリング債務	16	0
未払金	64	33
未払法人税等	124	88
未払費用	376	474
賞与引当金	26	5
店舗閉鎖損失引当金	-	14
資産除去債務	4	22
その他	177	74
流動負債合計	3,370	3,112
固定負債		
長期借入金	-	900
退職給付引当金	1,572	1,514
転貸損失引当金	15	9
長期預り保証金	113	99
資産除去債務	561	507
繰延税金負債	23	11
その他	10	5
固定負債合計	2,297	3,047
負債合計	5,667	6,159
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	4,898	4,898
利益剰余金	△2,210	△3,133
自己株式	△80	△80
株主資本合計	2,707	1,784
純資産合計	2,707	1,784
負債純資産合計	8,375	7,943

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2023年3月1日 至2023年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自2024年3月1日 至2024年11月30日)
売上高	11,698	9,758
売上原価	5,901	5,007
売上総利益	5,796	4,751
販売費及び一般管理費	6,346	5,556
営業損失(△)	△550	△804
営業外収益		
受取利息	0	0
受取家賃	183	139
その他	31	26
営業外収益合計	214	166
営業外費用		
支払利息	1	3
不動産賃貸費用	157	116
その他	21	4
営業外費用合計	181	125
経常損失(△)	△516	△763
特別利益		
固定資産売却益	-	1
特別利益合計	-	1
特別損失		
固定資産除却損	5	0
店舗閉鎖損失	3	-
減損損失	60	60
店舗閉鎖損失引当金繰入額	5	14
リース解約損	10	8
特別損失合計	85	84
税引前四半期純損失(△)	△601	△846
法人税、住民税及び事業税	95	88
法人税等調整額	△3	△12
法人税等合計	92	76
四半期純損失(△)	△694	△922

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は衣料品等小売業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
減価償却費	132百万円	83百万円

3. その他

(継続企業の前提に関する重要事象等)

当社は、前事業年度まで6期連続して営業損失を計上し、当第3四半期においても営業損失を計上しているため、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる事象又は状況が存在しております。

当該状況の解消のために、下記改善施策の実行により売上を回復し、収益性を高め、財務体質の改善を図ってまいります。

(1) マルチブランド政策の精度向上とコアアイテムの育成

現在展開しているブランド構成と展開アイテムの見直しに加え、年間を通じて需要が見込まれる商品や、猛暑、冷え込みなどの気候に対応する商品を、当社の顔となるコアアイテムとして継続的なプロモーションを実施し、売上を安定的に確保できる業績回復の基盤づくりを推進いたします。

(2) 収益体質の改善

不採算店舗の退店による固定費の削減、及び業務の内製化推進によりコスト圧縮など経費コントロールを徹底すると同時に、無駄な売価変更を抑制し、粗利率の向上を図ります。

(3) 滞留在庫の現金化と過剰在庫の抑制

引き続き滞留在庫の消化促進による現金化を推進すると共に、仕入コントロールを徹底し、適正在庫を維持することで過剰なキャッシュアウトを防いでまいります。

上記施策を中心に売上回復と抜本的な財務体質と収益性の改善を図るだけでなく、業務提携先であるジーエフホールディングス株式会社の持つリソースやノウハウの活用によりシナジー効果を高め、業績回復を図ります。資金繰り面においては、借入先である株式会社チヨダとの間で借入金の返済期限を延長することについて合意を得ており、現在は事業に要する十分な資金を有しておりますが、今後資金繰りに懸念が生じる場合は、ジーエフグループからの支援だけでなく、多様な手法による資金調達も検討することとし、現時点では、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

(商品別売上高の状況)

商品別	期別	前第3四半期累計期間	当第3四半期累計期間	前年同四半期比	増減
		自 2023年3月1日 至 2023年11月30日	自 2024年3月1日 至 2024年11月30日		
メンズトップス		3,716百万円	3,107百万円	83.6%	△608百万円
メンズボトムス		2,332百万円	2,044百万円	87.6%	△288百万円
レディーストップス		2,061百万円	1,719百万円	83.4%	△341百万円
レディースボトムス		1,179百万円	1,081百万円	91.7%	△98百万円
キッズ		1,188百万円	905百万円	76.2%	△282百万円
その他		1,220百万円	900百万円	73.8%	△320百万円
合計		11,698百万円	9,758百万円	83.4%	△1,939百万円

(注) 「その他」はインナー・レグ、雑貨等であります。